

神奈川県江ノ島湘南港で採集されたヒルムシロヒドラ (ヒドロ虫綱, 花クラゲ目, モエリシア科) の成熟クラゲ

足立 文¹・崎山直夫¹・久保田信²

¹ 〒251-0035 神奈川県藤沢市片瀬海岸 2-19-1 新江ノ島水族館

² 〒649-2211 和歌山県西牟婁郡白浜町 459

京都大学フィールド科学教育研究センター瀬戸臨海実験所

A mature medusa of *Moerisia horii* (Uchida and Uchida) (Hydrozoa, Anthomedusae, Moerisiidae) from Enoshima-Shonan Bay, Fujisawa City, Kanagawa Prefecture, Japan

Aya Adachi¹, Tadao Sakiyama¹ and Shin Kubota²

¹ Enoshima-Aquarium,

19-1, Katasekaigan, 2-chome, Fujisawa-City, Kanagawa, 251-0035 Japan

² Seto Marine Biological Laboratory, Field Science Education and Research Center, Kyoto University,
459 Shirahama, Nishimuro, Wakayama, 649-2211 Japan

Abstract. On September 14, 2000, a brackish-water hydromedusa, *Moerisia horii* (Uchida and Uchida) (Hydrozoa, Anthomedusa, Moerisiidae) was found in Enoshima-Shonan Bay, Fujisawa City, Kanagawa Prefecture. The medusa is the biggest specimen of this species from Japan (6 mm high of bell), with the largest number of tentacles (32). It has never been caught from the sea, therefore as a representative of a very rare specimen its morphology is described with photographs.

Key words: Biggest medusa, Enoshima-Shonan Bay, hydromedusa, morphology.

(要約)

2000年9月14日, 神奈川県藤沢市江ノ島湘南港にて, 汽水産のヒドロクラゲであるヒルムシロヒドラ *Moerisia horii* (Uchida and Uchida) のクラゲが1個体採集されたので報告する. この成熟クラゲはこれまでの日本産の記録中の最大個体で, 傘高が6 mmあり, 触手も最多の32本を有していた. 本種が海で採集されたのは初めてでたいへん希少な例である.

はじめに

ヒルムシロヒドラ *Moerisia horii* (Uchida and Uchida, 1929) は, わが国の汽水域に生息

するモエリシア科 (花クラゲ目) に属する唯一の種である (久保田, 1998). 本種の記録は, 1929年に石川県の河北潟と邑知潟から発見されたポリプを内田亨博士らが新種として記

連絡先: 久保田 信, shkubota@medusanpolyp.mbox.media.kyoto-u.ac.jp

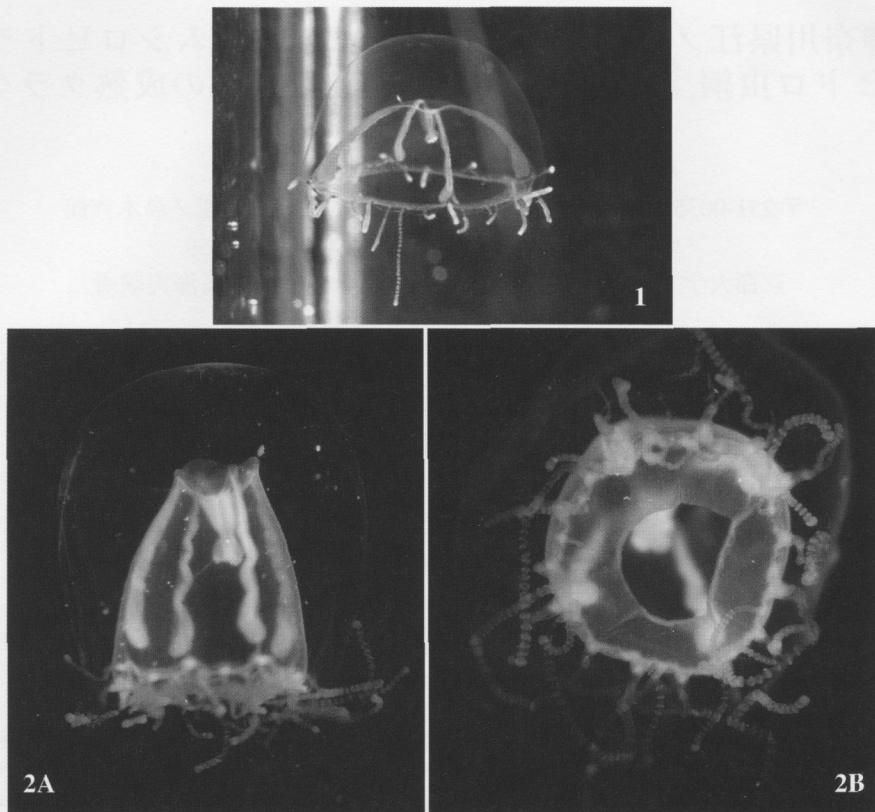


Fig. 1. A mature medusa of *Moerisia horii* (Uchida and Uchida) (Hydrozoa, Anthomedusae, Moerisiidae) from Enoshima-Shonan Bay, Fujisawa City, Kanagawa Prefecture, Japan (living specimen). (神奈川県藤沢市江の島湘南港の海から採集されたヒルムシロヒドラ (ヒドロ虫綱, 花クラゲ目, モエリシア科) の成熟クラゲ (生体)).

Fig. 2. The same mature medusa of *Moerisia horii* (Uchida and Uchida) (preserved specimen) (同上のヒルムシロヒドラの成熟クラゲ (固定標本)).

載したものが最初で (Uchida and Uchida, 1929), その後, 北海道, 宮城県, 福島県, 高知県, 広島県, 福岡県の汽水性の池沼にポリプが生息することが確認され (伊藤, 1953), その後, 東京で汽水の入るコンクリート槽にクラゲが発生した報告がなされた (Uchida, 1951). 他にはポリプとクラゲの両方が茨城県の湖沼や新潟県の八郎潟から報告された (長尾, 1970).

本種の生活史およびクニドームは, 1958年に北海道の春採湖から得られた多数の材料によって明らかになった (長尾, 1970; Uchida

and Nagao, 1959). このように本種は日本各地で散発的に確認されてきたが, 主として汽水の池, 湖, 沼からの報告であった.

筆者らは1997年1月から2002年9月にかけて, 神奈川県藤沢市の江ノ島湘南港におけるクラゲ類の出現調査を行い, 刺胞動物門40種 (ヒドロ虫綱34種, 箱虫綱1種, 鉢水母綱5種) と有櫛動物門6種の合計46種を報告した (山下・崎山, 1999; 崎山・足立, 2001; 足立ほか, 2003). その中で, 今回, 詳細に報告するのがヒルムシロヒドラのクラゲであり, 全調査期間を通じてただ1個体しか採集されなかつ

た(崎山・足立, 2001)。しかし, この記録は, 本種が海で採集された初めてのものであり, わが国で最大個体であることが判明したので記載する。

材料と方法

神奈川県藤沢市江の島湘南港で, 2000年9月中旬に, 柄を長くして目合いを細かくしたタモ網(網目約0.5 mm)を海中(水深約1 m以内)で数回動かしてクラゲを採集した。採集した生試料は数時間以内に実験室に持ち帰り, 実顕微鏡および顕微鏡で観察しプラクトンサンプルの中から選り出した。本種の形態の詳細な観察は, 主として固定標本で実施した。写真撮影は, 採集直後に生体で, 採集から5年後に固定標本で実施した。

結果と考察

2000年9月14日(天候: 曇り, 気温: 25.7°C, 水温: 26.7°C, 北の風・微風, 海況: 風), 本種は他の海産のクラゲ類6種に混じって発見された。傘部は鐘状で, 高さは約6 mm, 直径約5 mmである(図1)。寒天質は比較的良く発達していた。放射管は4本あり, 放射管に添ってリボン状に生殖巣が発達していた。触手は数珠状で, 全部で32本あった。各々の触手瘤の内側に眼点は紅色の眼点が1個ずつ認められた。眼点は固定後には確認できなくなった。口柄は傘高の半分ほどの長さで, 口唇は4つで, その形状は, 単純な十字形である。傘縁には感覚器は確認できなかった。

本個体はこれまで記載されたうちの最大個体と同じサイズであるが, 触手数は最多となった。本種は淡水産あるいは汽水産であるにもかかわらず, 今回初めて海で採集された。その理由としては, この付近あるいは他の地域

から注ぐ河川あるいは水路などから流出し, 海流や沿岸流などによって運ばれてきたことが考えられるが, 汽水産のクラゲがなぜ1個体だけここで採集されたのかに今後の調査では注意を払い, 付近でのポリプの生息の有無なども探りたい。

謝 辞

本調査を行うにあたり, ご協力いただきました, 新江ノ島水族館館長堀由紀子氏を始め, 水族館展示チームの皆様へ感謝致します。

引用文献

- 足立 文・崎山直夫・北田 貢・久保田信, 2003. 江の島湘南港およびその周辺に出現する水母類—III. 神奈川県自然誌資料, (24): 21-24.
- 伊藤猛夫, 1953. 日本の陸水産ヒドロ虫類 (5). 採集と飼育, 15: 262-266.
- 久保田信, 1998. 日本産ヒドロ虫綱 (8目) 目録. 南紀生物, 40: 13-21.
- 長尾 善, 1970. 春採湖のヒルムシロヒドラ. 釧路博物館報, 205: 6-8.
- 崎山直夫・足立 文, 2001. 江の島湘南港およびその周辺に出現する水母類—II. 神奈川県自然誌資料, (22): 69-72.
- 山下 修・崎山直夫, 1999. 江の島湘南港およびその周辺に出現する水母類. 神奈川県自然誌資料, (20): 19-100.
- Uchida, T., 1951. A brackish-water medusa from Japan. *J. Fac. Sci. Hokkaido Univ.* (6), 10: 161-162.
- Uchida, T. and Nagao, Z., 1959. The life-history of a Japanese brackish-water hydroid, *Ostroumovia horii*. *J. Fac. Sci. Hokkaido Univ.* (6), 14: 265-281.
- Uchida, T. and Uchida, S., 1929. Occurrence of a new lacustrine hydroid in Japan. *Proc. Imp. Acad.*, 5 (3): 157-158.

(2005年9月11日 受理)